

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地					
日本工学院八王子専門学校		昭和62年3月27日		中村 英詞		〒 192-0983 (住所) 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111					
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地					
学校法人片柳学園		昭和31年7月10日		千葉 茂		〒 144-8650 (住所) 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111					
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度		
文化・教養	芸術専門課程		スポーツ健康学科三年制 テニスコース		平成26(2014)年度		-		平成27(2015)年度		
学科の目的		日本テニス界のトップ経験のある一流の先生を講師に、技術や戦術、トレーニング法、指導のノウハウまで幅広く学び、将来のテニス界で活躍するさまざまなプロを育成します。2年次から「プレイヤー専攻」と「コーチ・指導者専攻」に分かれ、専門学校屈指の施設環境のもとで専門スキルを身につけます。3年制ではJTA公認大会に積極的に参加するなど、より数多くの実戦経験を積む中で、ハイレベルなテニスキルを培います。									
学科の特徴(取得可能な資格、中退率 等)		テニス教師、テニスコーチ1・2、テニスC級審判員、ビジネス能力検定ジョブパス3級 中退率17%									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技		
3年	昼間	※単位時間、単位いづれかに記入		2,485 単位時間	675 単位時間	1,950 単位時間	1,710 単位時間	0 単位時間	300 単位時間		
				単位	単位	単位	単位	単位	単位		
生徒総定員		生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)		中退率			
120 人の内数		17 人		0 人		0 %		17 %			
就職等の状況		■卒業者数(C)		8 人							
		■就職希望者数(D)		8 人							
		■就職者数(E)		8 人							
		■地元就職者数(F)		4 人							
		■就職率(E/D)		100 %							
		■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		50 %							
		■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		100 %							
		■進学者数		0 人							
		■その他									
		(令和 6 年度卒業者にに関する令和7年5月1日時点の情報)									
■主な就職先、業界等 (令和6年度卒業生) ㈱テニスユニバース、ノアインドアステージ㈱、㈱ニックインドアテニス、中山産業㈱、ウインザー商事㈱、品川プリンスホテル、アーバンリゾーツ昭和の森、ゼストテニスクラブ、											
第三者による学校評価		■民間の評価機関等から第三者評価: 有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 特定非営利活動法人 私立専門学校 受審年月: 平成26年3月 評価結果を掲載したホームページURL									
当該学科のホームページURL		https://www.neec.ac.jp/departmentsports/health/tennis/									
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)		(A:単位時間による算定)									
		総授業時数					4,635 単位時間				
		うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					0 単位時間				
		うち企業等と連携した演習の授業時数					720 単位時間				
		うち必修授業時数					1,815 単位時間				
		うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					0 単位時間				
		うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					720 単位時間				
		(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					0 単位時間				
		(B:単位数による算定)									
		総授業時数					単位				
		うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					単位				
		うち企業等と連携した演習の授業時数					単位				
		うち必修授業時数					単位				
		うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					単位				
		うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					単位				
		(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					単位				
教員の属性(専任教員について記入)		① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)					1 人				
		② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)					1 人				
		③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)					0 人				
		④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)					1 人				
		⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)					1 人				
		計					4 人				
		上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数					3 人				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

テニス業界に関する企業等と連携体制を確保して、プレイヤーとしての競技力向上のための実践経験やコーチやテニスクラブスタッフに必要な人間力を身につけるためのインターン及び実習や業界人として必要な商品知識の習得に関し、適宜ヒアリングを行いカリキュラムに反映させる。そのため、学内外の実習設備や施設等を活用し、派遣された講師による年間を通じた定期的な指導や評価を受ける体制をとることが可能な企業等をスポーツ関連業界より選定している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、校長のもとに設置する会議の1つである。校長を委員長とし、学科責任者、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
井上 剛	公益社団法人 日本プロテニス協会 認定プロフェッショナル	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	①
徳丸 豊	株式会社徳丸テニススクール 代表取締役	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	③
杉山 利昌	株式会社ユニコーン 経営企画室室長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	③
中村 英詞	日本工学院八王子専門学校 校長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—
荒井 哲子	日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援部 部長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—
三樹 春幸	日本工学院八王子専門学校 カレッジ長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—
伊藤 茂彦	日本工学院八王子専門学校 科長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月・8月)

(開催日時(実績))

第1 回 令和6年09月19日 15:00～17:00

第2 回 令和7年03月03日 11:00～13:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

テニスの技術だけでなく、スクール運営に必要な事務作業・コミュニケーション力・企画・運営・施設管理などの総合的な能力を持った学生を育成することが必要というご意見をいただき、テニス実技系授業の他にもコーチング実技・座学系でスクール運営を見据えた多面的なスキルを重要視しながら実施している。業界理解に関してはスクール・メーカー等の方にご協力いただき特別講演を実施している。現場経験、実践力を高めていく必要があり、コーチング実習を活用し各学生の現場経験を増やすという取り組みを行う。また、現場実習ではオンコート指導以外の大会運営等を活用し総合的な能力を養う取り組みを行っている。

また3年次にはより高いレベルを求められる育成世代の指導に対し1年生を指導することで、年齢レベルに応じた基本理念や技術の修正を行う能力を高めている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等との打合せにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、目標を明確にする。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

テニス演習1において、有限会社テニスプロジェクトとの打ち合わせにより、テニスの特性を理解し、競技者に必要な技術を高め、年齢別に的確な指導ができるよう密に打ち合わせを実施し、練習内容を確認する。

上記企業からの派遣講師が各自毎に必要な技術の洗い出し、技術プラス体力アップの練習を行い、試合に向けて現状の再認識し個人のレベルの向上を目指す。またテニスプレイヤー・コーチに必要な資格や、技能・実習内容や企業との打ち合わせのもと作成した独自の評価を設定し、目標を明確にする。企業の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
テニス演習1	2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	テニスの特性について理解し、基本的な技術とそれらを応用した戦術を学びます。	有限会社テニスプロジェクト
テニス演習2	2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	テニスの特性について理解し、基本的な技術とそれらを応用した戦術を学びます。	有限会社テニスプロジェクト
テニス演習3	2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	テニスの特性について理解し、基本的な技術とそれらを応用した戦術を学びます。	有限会社テニスプロジェクト
テニス演習4	2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	テニスの特性について理解し、基本的な技術とそれらを応用した戦術を学びます。	有限会社テニスプロジェクト

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的にやっていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	スポーツ×IoT・ICT①	連携企業等:	株式会社ライフ パフォーマンス 代表取締役 大塚慶輔
期間:	令和6年9月20日 10:00-12:00	対象:	スポーツ教員
内容	コンディショニングの方法		
研修名:	スポーツ×IoT・ICT②	連携企業等:	株式会社ライフ パフォーマンス 代表取締役 大塚慶輔
期間:	令和7年3月3日 10:00-12:00	対象:	スポーツ教員
内容	スポーツ業界で求められる人材		

②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名： スポーツ系学校における救急体制と対応①	連携企業等： 国士館大学防災・救急救助総合研究所講師 菅根悦子	
期間： 令和6年9月20日 16:00～18:00	対象： スポーツ教員	
内容 FIRE処置・救急処置・EAP		
研修名： スポーツ系学校における救急体制と対応②	連携企業等： 国士館大学防災・救急救助総合研究所講師 菅根悦子	
期間： 令和7年3月3日 14:00～16:00	対象： スポーツ教員	
内容 救急事例・法的問題・救急対応力		
(3)研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名： プロスポーツチームのビジネス最前線①	連携企業等： 株式会社アルファーズ 代表取締役社長 上原和人	
期間： 令和7年9月17日 15:00～17:00	対象： スポーツ教員	
内容 プロバスケット B1チームの運営と取り組み		
研修名： プロスポーツチームのビジネス最前線②	連携企業等： 株式会社アルファーズ 代表取締役社長 上原和人	
期間： 令和8年3月を予定	対象： スポーツ教員	
内容 プロバスケット B1チームの運営と取り組み		
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名： 学生の自立を促す指導①	連携企業等： 国士館大学体育学部 教授 体育学部部長 古田仁志	
期間： 令和7年9月19日 15:00～17:00	対象： スポーツ教員	
内容 主体性を促す指導・コーチング		
研修名： 学生の自立を促す指導②	連携企業等： 国士館大学体育学部 教授 体育学部部長 古田仁志	
期間： 令和8年3月を予定	対象： スポーツ教員	
内容 主体性を促す指導・コーチング		
4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係		
(1)学校関係者評価の基本方針 専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。 学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。		

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)学修成果
(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会会議における、本校の自己点検に対する評価委員からの主な意見と、それに対する本校の対応(活用)方法は以下のとおりです。

1. 留学生支援・国際交流の充実

評価委員からは、留学生の増加に伴い、日本語学習の困難や文化的背景への配慮が必要であるとの指摘があり、非漢字圏の学生への対応や語学支援の強化が求められています。また、英語圏以外の国々からの学生が増えていることを踏まえ、国際交流や交換留学制度の整備、Zoom等を活用した海外との交流機会の創出が望ましいとの意見がありました。

2. 教育内容・学習環境の向上

委員からは、学生の作品の質が年々向上していることが評価される一方で、医療分野におけるAI活用など、より実践的な教育内容の充実が求められています。また、番組制作やカメラ・照明などの職人的分野では、現場での学びが重要であり、専門学校としての強みを活かすべきとの指摘がありました。加えて、教職員のデジタル知識の向上が必要であるとの意見も示され、ICT活用の推進が課題とされています。

3. 地域連携・社会とのつながり

地域との連携については、ボランティアやアルバイトなど地域密着型の活動を経験している学生が多く、これを学校の特色として活かすべきとの指摘がありました。また、地域のスポーツ団体とのマッチング機会の創出や、予算面での課題を踏まえた地域活動の工夫が求められています。

4. 多様な学習者・進路支援への対応

委員からは、総合型入試を活用する学生の増加や、資格取得を通じた進学支援の必要性が指摘されました。さらに、社会人が専門学校で学び直す際には、資格取得が可能な環境整備や、異なる年齢層が共に学ぶことによる相互刺激の価値を重視すべきとの意見があり、多様な学習者に対応する柔軟な教育体制の構築が求められています。

5. 学生支援・メンタルヘルスの充実

学生が安心して学べる環境づくりに向けて、メンタルヘルス支援の充実が必要であるとの指摘がありました。言葉の掛け方によって学生の反応が変わることから、教職員の対応力向上も重要視されています。また、健康面での支援体制の強化や、個々の学生に応じた支援のあり方についても、今後の検討課題として挙げられています。

以上の内容を踏まえ、学校関係者評価委員会において討議された事項に基づき、次の5項目について検討を行い、今後の取組に活用してまいります。

- ・日本語教育の強化や海外との交流機会の創出、国際連携の推進など、留学生がより学びやすい環境づくりについて今後の整備を検討します。
- ・地域企業や団体との協働、地域イベントへの参加促進などを通じて、学生の実践力育成と学校の地域貢献を目指す取り組みを模索しています。
- ・教職員のICTスキル向上や授業のデジタル化、学生成果の外部発信など、教育の質を高めるための環境整備を段階的に実施していきます。
- ・社会人や非全日制学生への柔軟な学習支援、資格取得支援制度の整備など、多様な学びのニーズに応える体制づくりを今後の課題としています。
- ・メンタルヘルス支援や多言語対応、個別支援の充実など、学生が安心して学べる環境の構築に向けた取り組みを引き続き検討していきます。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社)	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	卒業生／企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 専務理事	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	地域関連
山本 哲志	株式会社フジ・メディア・テクノロジー 管理センター 総務部長	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員
才丸 大介	株式会社カオルデザイン 取締役 マーケティング戦略室 室長	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員
矢野 俊宏	株式会社田中建設 取締役 営業本部長	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野循環器病院 事務長	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: [URL:https://www.neec.ac.jp/public/](https://www.neec.ac.jp/public/)

公表時期: 令和7年9月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めにに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価、令和6年度の項目別の自己評価表
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: [URL:https://www.neec.ac.jp/public/](https://www.neec.ac.jp/public/)

公表時期: 令和7年9月30日

授業科目等の概要

(芸術専門課程 スポーツ健康学科三年制 テニスコース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			ビジネススキル1	社会人になるために必要なヒューマンスキルおよび、ビジネス検定合格のためのスキルを身につけます。	1	30	2	○			○		○		
2	○			ビジネススキル2	社会人になるために必要なヒューマンスキルおよび、ビジネス検定合格のためのスキルを身につけます。	1	30	2	○			○		○		
3	○			P C活用1	マイクロソフト認定W o r d資格取得に向けて、必要な基礎知識を学びます。	1	30	2		○		○			○	
4	○			P C活用2	マイクロソフト認定W o r d、E x c e l資格取得に向けて、必要な基礎知識を学びます。	1	30	2		○		○			○	
5	○			コーチング概論1	コーチングについてアクティブラーニング形式を中心に学びます。	1	30	2		○		○		○		
6	○			コーチング概論2	グッドコーチに求められる医・科学知識や現場・環境に応じたコーチングを学びます。	1	30	2		○		○		○		
7	○			解剖学概論	骨格、筋肉、心臓、血管、呼吸器、神経などの構造と機能について学びます。	1	30	2	○			○			○	
8	○			コーチ学	スポーツ指導者とは、指導者の心構え・視点、競技者育成プログラムの理念、指導計画の立て方、スポーツ活動と安全管理、スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任などについて学びます。	1	30	2	○			○		○		
9	○			スポーツ医学概論	スポーツと健康、スポーツ活動中に多いケガや病気、アスリートの健康管理と内科的障害と対策、呼吸循環器系の働きとエネルギー供給、アンチドーピング、スポーツによる精神障害などについて学びます。	1	15	1	○			○			○	
10	○			トレーニング科学1	競技者育成と評価、競技者育成システムにおける指導計画、競技力向上のためのチームマネジメント、競技スポーツとIT、体力とは、トレーニングの進め方、トレーニングの種類について学びます。	1	30	2	○			○		○		
11	○			栄養学	スポーツと栄養、アスリートの栄養摂取と食生活について学びます。	1	15	1	○			○			○	
12	○			テニス演習1	テニスの特性について理解し、基本的な技術とそれらを応用した戦術を学びます。	1	180	12		○		○		○	○	○
13	○			テニス演習2	テニスの特性について理解し、基本的な技術とそれらを応用した戦術を学びます。	1	180	12		○		○		○	○	○
14	○			コーチング演習1	テニスを指導するための基本的な球出しやヒッティングスキルを学びます。	1	30	2		○		○		○	○	
15	○			コーチング演習2	基本的な球出しやヒッティングスキルに加え、安全管理・デモンストレーション・段階的指導法など、指導の基礎について学びます。	1	30	2		○		○		○	○	
16	○			トレーニング演習1	テニスプレイヤーとして最適なからだをつくるためのトレーニング方法を学び、実践します。	1	30	2		○		○			○	

17	○		トレーニング演習 2	テニスプレイヤーとして最適なからだをつくるためのトレーニング方法を学び、実践します。	1	30	2		○		○			○	
18	○		スポーツ心理学	スポーツと心、スポーツにおける動機づけ、コーチングの心理、メンタルマネジメント、指導者のメンタルマネジメント、スポーツ相談の意義、スポーツ相談の実際、子どもたちを取り巻く問題点と運動・スポーツの必要性などについて学びます。	1	30	2	○			○			○	
19	○		健康教育学	発育発達期の身体的特徴、心理的特徴、発育発達期に多いケガや病気、発育発達期のプログラムなどについて学びます。	1	15	1	○			○		○		
20		○	テニス現場実習 A	学外などにおいて現場の実践的な経験を積み、テニス業界で働くための資質を高めます。必※	1	60	2		○		○	○			
21		○	コーチング実習 A	テニススクール、学内などでコーチングの現場実習を行います。選※	1	60	2		○		○	○			
22		○	プレーヤー実習 A	JTA公認大会、学内などでプレーヤーとして現場実習を行います。選※	1	60	2		○		○	○			
23		○	短期強化練習 1	短期間で集中的に技術と体力の強化を図りながら、集団行動による人間力を養います。選※	1	60	2		○		○	○			
24		○	短期強化練習 2	短期間で集中的に技術と体力の強化を図りながら、集団行動による人間力を養います。選※	1	60	2		○		○	○			
25		○	短期海外研修 A	海外にて最新の指導法に触れながら、自身のスキルアップ向上をめざします。選※	1	60	2		○		○	○			
26		○	スポーツトレーニング実習 A	メディカルフィットネスセンターなどを週1回利用して、トレーニング実践方法について学びます。選※	1	60	2		○	○		○			
27		○	スポーツ自由研究 A	スポーツに関することをさまざまな角度から捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。選※	1	30	1		○	○		○			
28		○	スポーツ自由研究 B	スポーツに関することをさまざまな角度から捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。選※	1	30	1		○	○		○			
29		○	キャンプインストラクター実習 A	総合的な自然体験である「キャンプ」の指導者として、キャンプの楽しさを多くの人へ伝えられるようにキャンプの基礎を学習します。選※	1	30	1		○		○		○		
30		○	マリンス実習 A	レベルに応じたサーフィン・ボディボードの基本技能を理解します。選※	1	30	1		○		○		○		
31		○	スキー実習 A	レベルに応じたスキーの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。選※	1	30	1		○		○		○		
32		○	スノーボード実習 A	レベルに応じたスノーボードの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。選※	1	30	1		○		○		○		
33		○	日本赤十字社救急法 A	日本赤十字社の救急法に関する知識と技術について学びます。選※	1	30	1		○	○			○		
34		○	キャリアアップセミナー A	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。選※	1	15	0		○	○			○		
35		○	キャリアアップセミナー B	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。選※	1	30	1		○	○			○		
36		○	キャリアアップセミナー C	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。選※	1	45	1		○	○			○		
37		○	キャリアアップセミナー D	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。選※	1	60	2		○	○			○		

38	○		ビジネススキル3	社会人になるために必要なヒューマンスキルおよび、ビジネス検定合格のためのスキルを身につけます。	2	30	2	○			○		○		
39	○		ビジネススキル4	社会人になるために必要なヒューマンスキルおよび、ビジネス検定合格のためのスキルを身につけます。	2	30	2	○			○		○		
40	○		テニス教師対策1	日本スポーツ協会公認テニス教師取得をめざします。	2	30	2	○			○		○		
41	○		テニス教師対策2	日本スポーツ協会公認テニス教師取得をめざします。	2	30	2	○			○		○		
42	○		テニス演習3	テニスの特性について理解し、基本的な技術とそれらを応用した戦術を学びます。	2	180	12		○		○		○	○	○
43	○		テニス演習4	テニスの特性について理解し、基本的な技術とそれらを応用した戦術を学びます。	2	180	12		○		○		○	○	○
44		○	コーチング演習3	PLAY&STAYを中心に初心・初級者への指導法について学びます。	2	90	6		○		○		○	○	
45		○	コーチング演習4	日本スポーツ協会公認テニス教師取得をめざし、さまざまなコーチングスキルを学びます。	2	90	6		○		○		○	○	
46		○	プレイヤー演習1	テニスプレイヤーとして必要な知識・技術・戦術とそれらの指導法を学びます。	2	90	6		○		○		○	○	
47		○	プレイヤー演習2	JTA公認大会・専門学校全国大会で上位入賞をめざし、さまざまなプレイヤースキルを学びます。	2	90	6		○		○		○	○	
48		○	トレーニング科学2	トレーニング理論とその方法、トレーニング計画とその実際、体力テストとその活用、スキルの獲得とその獲得過程、スポーツバイオメカニクスの基礎を学びます。	2	30	2	○			○		○		
49	○		トレーニング演習3	テニスプレイヤーとして最適なからだをつくるためのトレーニング方法を学び、実践します。	2	30	2		○		○		○		
50	○		トレーニング演習4	テニスプレイヤーとして最適なからだをつくるためのトレーニング方法を学び、実践します。	2	30	2		○		○		○		
51		○	テニス現場実習B	学外などにおいて現場の実践的な経験を積み、テニス業界で働くための資質を高めます。必※	2	60	2			○		○	○		
52		○	コーチング実習B	テニススクール、学内などでコーチングの現場実習を行います。選※	2	90	3			○		○	○		
53		○	プレイヤー実習B	JTA公認大会、学内などでプレイヤーとして現場実習を行います。選※	2	60	2			○		○	○		
54		○	短期強化練習3	短期間で集中的に技術と体力の強化を図りながら、集団行動による人間力を養います。選※	2	60	2			○		○	○		
55		○	短期強化練習4	短期間で集中的に技術と体力の強化を図りながら、集団行動による人間力を養います。選※	2	60	2			○		○	○		
56		○	短期海外研修B	海外にて最新の指導法に触れながら、自身のスキルアップ向上をめざします。選※	2	60	2			○		○	○		
57		○	スポーツトレーニング実習B	メディカルフィットネスセンターなどを週1回利用して、トレーニング実践方法について学びます。選※	2	60	2			○		○	○		
58		○	スポーツ自由研究C	スポーツに関することをさまざまな角度から捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。選※	2	30	1			○	○		○		
59		○	スポーツ自由研究D	スポーツに関することをさまざまな角度から捉え、実態や動向を明確にし、その意義・本質などを見極め理解を深めます。選※	2	30	1			○	○		○		

60		○	キャンプインストラクター実習B	総合的な自然体験である「キャンプ」の指導者として、キャンプの楽しさを多くの人へ伝えられるようにキャンプの基礎を学習します。選※	2	30	1			○	○		○		
61		○	マリン実習B	レベルに応じたサーフィン・ボディボードの基本技能を理解します。選※	2	30	1			○		○		○	
62		○	スキー実習B	レベルに応じたスキーの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。選※	2	30	1			○		○		○	
63		○	スノーボード実習B	レベルに応じたスノーボードの基本技能を理解します。レベル別バッチ検定を実施します。選※	2	30	1			○		○		○	
64		○	日本赤十字社救急法B	日本赤十字社の救急法に関する知識と技術について学びます。選※	2	30	1			○		○		○	
65		○	キャリアアップセミナーE	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。選※	2	15	0			○	○			○	
66		○	キャリアアップセミナーF	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。選※	2	30	1			○	○			○	
67		○	キャリアアップセミナーG	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。選※	2	45	1			○	○			○	
68		○	キャリアアップセミナーH	キネシオテーピングやストレッチングトレーナーなどの短期講座を受講して、資格取得をめざします。選※	2	60	2			○	○			○	
69	○		ビジネススキル5	社会人になるために必要なヒューマンスキルおよび、ビジネス検定合格のためのスキルを身につけます。	3	30	2	○			○		○		
70	○		ビジネススキル6	社会人になるために必要なヒューマンスキルおよび、ビジネス検定合格のためのスキルを身につけます。	3	30	2	○			○		○		
71	○		成果発表	在学中に学んだ事を基に成果発表のための企画・準備・運営を実施します。	3	60	4		○		○		○		
72	○		スクールマネジメント論1	組織運営ならびに仮想組織を形成し、各セクションの役割を学びます。	3	60	4	○			○			○	
73	○		スクールマネジメント論2	組織運営ならびに仮想組織を形成し、各セクションの役割を学びます。	3	60	4	○			○			○	
74	○		ストリングス演習	テニスショップ及びテニススクールにて即戦力となるストリングスを身につけます。	3	30	2		○		○		○		
75	○		テニスコーチ論	テニスコーチとして必要な知識・指導方法を座学形式にて学びます。	3	30	2	○			○		○		
76	○		スポーツ用品論	テニスショップ及びテニススクールにて即戦力となるスポーツ用品への知識を身につけます。	3	30	2	○			○		○	○	
77	○		テニス演習5	テニスの特性について理解し、基本的な技術とそれらを応用した戦術を学びます。	3	60	4		○		○		○	○	
78	○		テニス演習6	テニスの特性について理解し、基本的な技術とそれらを応用した戦術を学びます。	3	60	4		○		○		○	○	
79		○	テニス現場実習C	学外などにおいて現場の実践的な経験を積み、テニス業界で働くための資質を高めます。必※	3	90	3			○		○	○		
80		○	実践コーチング演習1	テニスコーチとして必要な各レベルに応じた矯正手段・指導方法を学び、実践します。	3	90	6		○		○		○		
81		○	実践コーチング演習2	テニスコーチとして必要な各レベルに応じた矯正手段・指導方法を学び、実践します。	3	90	6		○		○		○		
82		○	実践プレーヤー演習1	テニスプレーヤーとして勝ち続けるためのPDCAサイクルを循環させ、常に自身のテニススキル向上に取り組みます。	3	90	6		○		○		○		

83		○	実践プレーヤー演習2	テニスプレーヤーとして勝ち続けるためのPDCAサイクルを循環させ、常に自身のテニススキル向上に取り組みます。	3	90	6	○		○		○	
84		○	テニス教師対策3	日本スポーツ協会公認テニス教師取得をめざします。	3	30	2	○		○		○	
85		○	テニス教師対策4	日本スポーツ協会公認テニス教師取得をめざします。	3	30	2	○		○		○	
86	○		コーチング実習C	テニススクール、学内などでコーチングの現場実習を行います。選※	3	90	3		○		○	○	
87	○		プレーヤー実習C	JTA公認大会、学内などでプレーヤーとして現場実習を行います。選※	3	60	2		○		○	○	
88	○		短期強化練習5	短期間で集中的に技術と体力の強化を図りながら、集団行動による人間力を養います。選※	3	60	2		○		○	○	
89	○		短期強化練習6	短期間で集中的に技術と体力の強化を図りながら、集団行動による人間力を養います。選※	3	60	2		○		○	○	
90	○		短期海外研修C	海外にて最新の指導法に触れながら、自身のスキルアップ向上をめざします。選※	3	60	2		○		○	○	

合計	90 科目				4635時間 単位（単位時間） 240単位			
----	-------	--	--	--	--------------------------	--	--	--

卒業要件及び履修方法				授業期間等	
卒業要件：卒業時に必修科目2025時間(128単位)および選択科目460時間(16単位)以上取得し、合計2485時間(144単位)以上取得すること。				1 学年の学期区分	2 期
履修方法：1年次は必須885時間履修すること。 2年次は必須600時間、選択科目200時間以上履修すること。 3年次は必須540時間、選択科目260時間以上履修すること。				1 学期の授業期間	15 週

選択科目の履修方法

1年次は必修885時間、選択科目0時間以上履修すること

2年次は必修600時間、選択科目200時間以上履修すること

3年次は必修540時間、選択科目260時間以上履修すること

必選別の後の※印があるものは授業時間割外で実施